

和歌山県内経済情勢報告

(平成30年10月判断)

1. 総論 「県内経済は、緩やかに回復しつつある」(判断を据え置き)

【総括判断】

項目	前回(30年7月判断)	今回(30年10月判断)	前回比較
総括判断	緩やかに回復しつつある	緩やかに回復しつつある	→

(注) 30年10月判断は、前回30年7月判断以降、10月に入ってからの足下(10月末)の状況までを含めた期間で判断している。

(判断の要点)

個人消費は持ち直しているほか、生産活動は回復し、雇用情勢も着実に改善しているなど全体として緩やかに回復しつつある。

なお、自然災害の影響については、生産活動では、一部企業で生産ラインの停止などがあったものの、個人消費では、災害用備蓄品等が好調であるなど、現時点における影響は限定的であった。

【各項目の判断】

項目	前回(30年7月判断)	今回(30年10月判断)	前回比較
個人消費	持ち直している	持ち直している	→
生産活動	回復している	回復している	→
雇用情勢	着実に改善している	着実に改善している	→
設備投資	30年度は前年を下回る計画	30年度は前年を下回る計画	→
企業収益	30年度は増益見通し	30年度は増益見通し	→

【先行き】

先行きについては、雇用環境等の改善が続くなかで、各種政策効果などを背景に、県内経済は回復の動きが強まっていくことが期待される。ただし、通商問題や海外経済の動向のほか、金融資本市場の変動の影響について留意する必要がある。

また、相次いでいる自然災害が地域に与える影響について、注視して見守りたい。

2. 各論

【主な項目】

■ 個人消費 「持ち直している」

百貨店・スーパーは、飲食料品では猛暑の影響から飲料水等が好調となっているものの、他業態との競争により衣料品を中心に弱い動きとなっている。

コンビニエンスストアは、おにぎりや惣菜のほか、季節商品が堅調となっていることや、ドラッグストアは、冷凍食品を中心に引き続き好調となっている。なお、自然災害の影響を受け、各業態において、災害用備蓄品等が好調となっている。

乗用車販売は、安全装置・自動運転機能を搭載した普通車や軽自動車が堅調な動きとなっている。

観光は、夏休み期間中の宿泊客は堅調に推移している。なお、自然災害の影響を受け、公共交通機関の運休等により観光客が減少している。

(主なヒアリング結果)

- 他業態との競争等から客数は減少したものの、猛暑の影響で飲料水やお菓子などが好調。また、自然災害の影響で、乾電池や缶詰、インスタント食品等の売れ行きも好調となっている。(百貨店・スーパー)
- 衣料品はセールの時期を昨年と比べ一部前月(6月)に前倒ししたため、7月以降は、前年を下回ったものの、身の回り品は特選ブランドが好調となっている。(百貨店・スーパー)
- 惣菜やおにぎりが好調であるほか、猛暑により冷たい麺やアイスクリーム類といった季節商品も好調となっている。(コンビニエンスストア)
- 冷凍食品が引き続き好調であるほか、猛暑の影響で清涼飲料水、災害の影響で乾電池等の災害用備蓄品も昨年を上回っている。(ドラッグストア)
- モデルチェンジの効果もあり好調であったほか、安全装置や自動運転機能を搭載した車種を中心に好調を維持している。(自動車販売店)
- 宿泊施設の稼働率は引き続き高水準で推移している。なお、自然災害の影響から電車が運休するなど観光客は減少したものの、外国人観光客はそれほど影響を受けていない。(観光関係団体)

■ 生産活動 「回復している」

はん用機械では国内・海外向けともに堅調となっていることや、生産用機械では一部の海外需要に一服感が見られるものの高水準を維持しているなど、主力である機械工業は、引き続き堅調となっている。また、化学工業は、家庭用製品向けを中心に堅調となっていることや、鉄鋼業でも、国内・海外向けともに堅調であるなど、生産活動は回復している。

(主なヒアリング結果)

- 一部の海外需要に一服感が見られるものの、工場の稼働状況は順調となっている。(機械工業)
- 主力の中間物が好調であるなど、生産は計画通り堅調に推移している。(化学工業)
- 主力製品は安定した受注を確保しているほか、国内向けの建材も堅調となっている。(鉄鋼業)

■ 雇用情勢 「着実に改善している」

有効求人倍率は1倍を超え、高水準で推移している。また、新規求人数も高水準で推移しており、雇用情勢は着実に改善している。

(主なヒアリング結果)

- 技術職の新卒採用において、他社と取り合いになっている。(化学工業)
- 近隣の競合店とアルバイト・パートの取り合いになっていることから、人手確保のために大幅な賃上げを余儀なくされている。(小売業)
- 人手不足を解消するため、外国人技能実習生の受け入れに向け、現在手続きを行っている。(機械工業)

■ **設備投資** 「30年度は前年を下回る計画」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」30年7~9月期

法人企業景気予測調査(30年7~9月期調査)でみると、30年度通期の設備投資は、全産業で前年を下回る計画となっている。産業別では、製造業、非製造業ともに前年を下回る計画となっている。

■ **企業収益** 「30年度は増益見通し」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」30年7~9月期

法人企業景気予測調査(30年7~9月期調査)でみると、30年度通期の経常利益は、全産業で増益見通しとなっている。産業別では、製造業、非製造業ともに増益見通しとなっている。

【その他の項目】

■ **住宅建設** 「前年を上回る」

新設住宅着工戸数(3ヶ月後方移動平均値)でみると、前年を上回っている。内訳でみると、貸家で前年を下回っているものの、持家、分譲で前年を上回っている。

■ **公共事業** 「前年を上回る」

前払金保証請負金額(年度累計額)でみると、前年を上回っている。内訳でみると、市町村で前年を下回っているものの、国、県、独立行政法人等で前年を上回っている。

■ **企業倒産** 「倒産件数、負債総額ともに前年を上回る」

倒産件数、負債総額ともに前年を上回っている。

■ **景況判断** 「「下降」超となっている」

法人企業景気予測調査(30年7~9月期調査)の景況判断BSIでみると、全産業で「下降」超となっている。

産業別では、製造業は「上昇」超となっているものの、非製造業は「下降」超となっている。

規模別では、大企業、中堅企業は「上昇」と「下降」が均衡しているものの、中小企業は「下降」超となっている。